

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-126	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and risk of cutaneous basal cell carcinoma in women and men: 3 prospective cohort studies. 男女におけるアルコール消費と皮膚基底細胞がん：3つの前向きコホート研究		
執筆者		
Wu S, Li WQ, Qureshi AA, Cho E.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2015 Nov;102(5):1158-66. doi: 10.3945/ajcn.115.115196.		
キーワード		PMID
皮膚がん、日焼け、アルコール		26423390
要 旨		
<p>目的： アルコール消費は、皮膚がんの確立された危険因子である日焼けと正の関連を有している。本研究では、アルコール消費と皮膚の基底細胞がん(BCC)との関連を調査した。</p> <p>方法： 前向きコホート研究。対象は、Nurses' Health Study(NHS。1984-2010)、および NHS II (1991-2011)に参加した 167,765 の女性と Health Professionals follow-Up Study(1986-2010)に参加した 43,697 名の男性。アルコール摂取量は観察期間中 2-4 年ごとに繰り返し評価した。基底細胞がんとアルコール摂取量の関連は、Cox 比例ハザードモデルを用いて、日光への曝露とその他の危険因子を調整し、ハザード比と 95%信頼区間として表した。</p> <p>結果： 374 万人・年の観察期間で 28,951 例に基底細胞がんが確認された。高いアルコール摂取量は男女ともに基底細胞がんのリスク上昇と関連が認められた(男女ともに傾向 $P < 0.0001$)。多変量調整したハザード比(HR(95%信頼区間))をアルコール平均摂取量のカテゴリー別に見ると、非飲酒者を対照(1.00)として、0.1-9.9g/d、10.0-19.9g/d、20.0-29.9g/d、>30.0g/d 群でそれぞれ 1.13(1.06-1.20)、1.24(1.14-1.35)、1.27(1.20-1.35)、1.22(1.15-1.30)であった($P < 0.0001$、研究による不均一性 $P = 0.10$)。この関連は発症までの潜在期間(0-4 年,4-8 年,8-12 年,12-16 年)で層別化しても、あるいは日光曝露関連因子によるカテゴリー別にみても同様であった。アルコール飲料別の検討では、白ワインと蒸留酒において、基底細胞がん正の関連がみられた。</p> <p>結論： アルコール消費は男女ともに基底細胞がんのリスク上昇と関連が認められた。</p>		